

パンタグラフ舟体の誤取付が発見

しかし、「何故逆に付くのか？」の疑問の声と何故か現場写真の公開に応じない会社！

5月17日、パンタグラフ舟体の誤取付けが発見されました。5月4日に大阪仕業検査車両所でパンタグラフ舟体に亀裂等があるとして取り換えを行いました。その際にパンタグラフ舟体の山・海側を左右反対に取り付けたとされています。

会社は、今回の事象で作業に携わった社員の確認不足だけを問題にして、舟体が左右反対に取り付いた構造的な問題を無視しています。通常、舟体を逆に取り付けようとしても片方だけにある切り欠き（4mm程度の凹凸）が邪魔になって正常に取り付かないようになっています。当然、無理に取り付ければ舟体は斜めになり、4本の取り付けボルトのうち2本はボルト頭部の長さも短くなります。しかし、作業によっては4本のボルトは同じ長さまで締め付けトルク管理も行ったそうです。

今回の事故を受けての職場の反応は「何で舟体が逆に付くのか？逆に入らないだろう」「何かおかしい？」という疑問の声が多く出ています。更に「何で写真を見せないのだろう」「何が写っているのか？」という疑問と同時に作業中に2名の管理者が立ち会っていたのに管理者は何をしていたのかという不審の声も出ています。

原因抜きの教育(対策)で再発防止出来るのか？！

会社は、5月26日から「パンタグラフ構造教育」を実施しています。再発防止のためにパンタグラフのモックアップ(模型)を使い全社員を対象に行っています。その内容は、パンタグラフ舟体の切り欠きを最初から無視して、無理矢理パンタグラフ舟体を逆に取り付け、舟体が正常に入らず斜めになった状態で、取り付けボルト頭部の長さも2本が短い状態の中で、異常を発見する幾つかのポイントを確認するのが今回の教育の内容です。しかし、今回の事象とは少し違います。ボルトは4本とも所定のトルクで締め付け、長さも4本とも同じ事を確認しています。会社はその部分はふれずに今回の教育で全てを終わらせようとしています。再発の防止には疑問点を全て明らかにして原因をしっかりと究明することが必要です。

私たちは、申し入れを行い、疑問や問題点の解決に向け奮闘していきます。